

福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の
貯蔵及び処理の状況について（第 535 報）

2022 年 1 月 17 日

東京電力ホールディングス株式会社

1. はじめに

本書は、2011 年 6 月 9 日付「東京電力株式会社福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備等の設置について（指示）」（平成 23・06・08 原院第 6 号）にて、指示があった以下の内容について報告するものである。

【指示内容】

汚染水の処理設備の稼働後速やかに、同発電所内の汚染水の貯蔵及び処理の状況並びに当該状況を踏まえた今後の見通しについて当院に報告すること。また、その後、集中廃棄物処理建屋内の汚染水の処理が終了するまで、一週間に一度当院に対して、同様の報告を実施すること。

2. 建屋内滞留水の貯蔵及び処理の状況（実績）

2022 年 1 月 13 日の各建屋内（1～4 号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設における貯蔵量、処理量等は添付資料-1 の通り。

3. 貯蔵及び処理の今後の見通し

(1) 短期見通し

1, 2 号機及び 3, 4 号機の建屋内滞留水の移送については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量、放射能処理装置、サブドレン集水設備の稼働状況を踏まえて計画する。移送先については、滞留水貯蔵施設であるプロセス主建屋または高温焼却炉建屋とする。

また、処理については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量及び移送の状況を踏まえ、実施することとする。

2022 年 1 月 20 日の各建屋内（1～4 号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設における貯蔵量、処理量等は添付資料-2 の通り。

(2) 中期見通し

1, 2 号機及び 3, 4 号機の建屋内滞留水については、海洋への放出リスク及び地下水への漏えいリスクを低減させる観点から、建屋内滞留水の TP. 2, 564 到達までの余裕を確保し、建屋内滞留水水位を地下水位よりも低く管理することが必要である。

一方で、地下水の流入量を抑制し、建屋内滞留水の発生量を減少させるという観点から、建屋内滞留水水位は建屋近傍のサブドレン水位と所定の水位差を確保しつつ、循環注水を行っている 1~3 号機原子炉建屋については、滞留水貯蔵施設の貯蔵容量や高濃度滞留水の処理状況等を踏まえた移送を計画する。それ以外の建屋最下階の床面が露出した建屋については、床面露出状態を維持できるよう移送を計画する。

プロセス主建屋及び高温焼却炉建屋の滞留水については、中低レベル用処理水受タンクの設置状況や放射能処理装置の稼働率、メンテナンス期間を踏まえて、処理を計画する。

滞留水貯蔵施設における貯蔵及び処理状況の 3 ヶ月後までの見通しは添付資料-3 の通り。

滞留水貯蔵施設の貯蔵量は、降雨の影響がないと仮定すると、移送及び処理を実施することにより、ほぼ一定で推移する見込みであるが、放射能処理装置の稼働率等により変更の可能性はある。

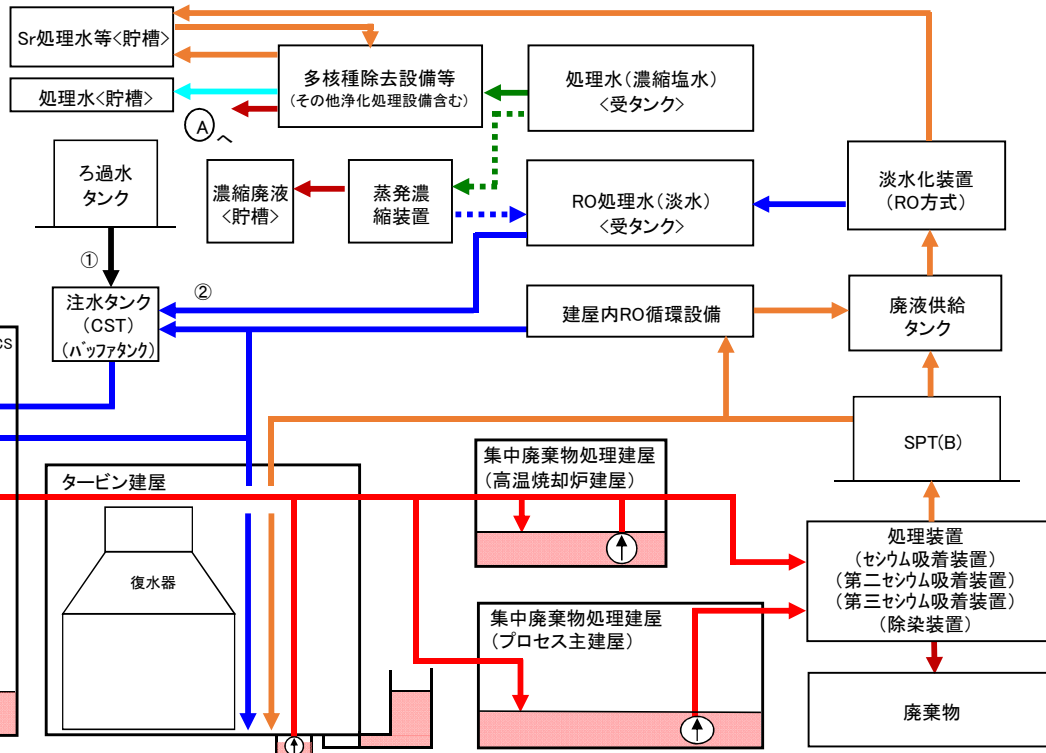
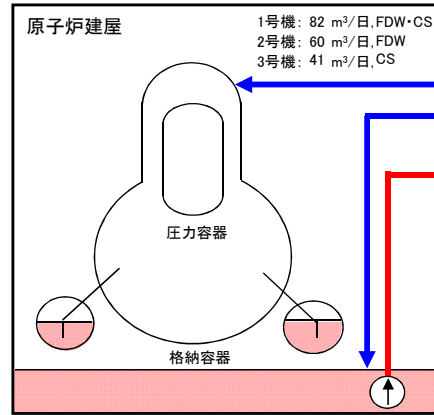
また、放射能処理装置で処理した水は、中低レベル用処理水受タンクにより貯蔵可能である。

以 上

高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【2022/1/13現在】

区 分	
— / —	高レベル水/廃棄物、濃縮廃液
— / —	処理水(濃縮塩水)/配管撤去
— / —	Sr処理水等
— / —	RO処理水(淡水)/配管撤去
— / —	多核種除去設備等処理済水
— / —	ろ過水

原子炉注水量[m ³](1/6-1/13)	前回報告比[m ³]
①ろ過水	-
②RO処理水(淡水)	+25
累積処理水	1,146,137



水種別の貯蔵量[m ³]	※1.2	前回報告比[m ³]	貯蔵容量[m ³]	※3.4
濃縮塩水	0	-	-	-
RO処理水(淡水)	9,230	▲77	12,000	
濃縮廃液	9,200	変化なし	10,300	
処理水	※12.16	1,218,949	▲36	1,232,000
サンプル水	※14.16	3,922	+68	11,600
処理水(再利用)	※15.16	51,652	+1,103	94,000
Sr処理水等	※10	12,048	▲492	27,600

残水量[m ³]	※5	前回報告比[m ³]	貯蔵容量[m ³]	※3.4
濃縮塩水	約200	変化なし	約2,100	
処理水	※13.16	0	変化なし	0
Sr処理水等	※11	0	変化なし	0

貯蔵量[m ³]	前回報告比[m ³]	貯蔵容量[m ³]	※3
廃液供給タンク	426	変化なし	1,200
SPT(B)	1,475	+847	3,100

	塩素濃度[ppm]
淡水化装置処理前/後	60/<1 (2021/12/7採取)
建屋内RO循環設備処理前/後	90/<1 (2021/12/17採取)
蒸発濃縮処理前/後	-

試料採取箇所	試料濃度[Bq/L]	※6
プロセス主建屋	1.4E+07	(2021/12/6採取)
セシウム吸着装置出口	3.8E+03	(2019/3/22採取)
除染装置出口	-	
高温焼却炉建屋	1.1E+07	(2021/8/3採取)
第二セシウム吸着装置出口	2.9E+02	(2021/11/5採取)
第三セシウム吸着装置出口	2.3E+02	(2021/12/6採取)

施設	貯蔵量[m ³]	前回報告比[m ³]	T/B建屋内水位※8
1号機	約1,070	▲10	-
2号機	約1,420	+10	-
3号機	約1,960	+10	-
4号機	約10	変化なし	-
合計	約4,460		

貯蔵施設	貯蔵量[m ³]	前回報告比[m ³]	水位 ※8	処理量[m ³](1/6-1/13)	累積処理量[m ³]	廃棄物発生量	前回報告比	保管容量	
プロセス主建屋	約4,470	▲50	T.P.-761	約2,700 ※7	約2,490,740 ※7	廃スラッジ[m ³]	438 ※17	変化なし	700 ※3
高温焼却炉建屋	約3,060	▲750	T.P.281			使用済ベッセル[本]	5,284 ※9	+4	6,372
合計	約7,530								

※1 水移送中の水位は静定しないため参考値扱い
 ※2 貯蔵量に下記の「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいない
 RO処理水(淡水): 約0.01万m³、濃縮廃液: 約0.01万m³、処理水: 約0.22万m³、
 処理水(再利用): 約0.01万m³、Sr処理水等: 約0.02万m³
 ※3 運用上の上限値
 ※4 「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」は含んでいないが、貯蔵量のDS以上の貯蔵容量がある
 ※5 表記載の残水量には、「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいる
 濃縮塩水の残水量は多核種除去設備等の処理量より算出
 ※6 表記はCs-137のデータ
 ※7 セシウム吸着装置、第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置の合計処理量
 処理量の内訳: セシウム吸着装置 0 m³
 第二セシウム吸着装置 870 m³
 第三セシウム吸着装置 1,830 m³
 累積処理量の内訳: セシウム吸着装置 394,720 m³
 第二セシウム吸着装置 1,984,180 m³
 第三セシウム吸着装置 111,840 m³
 ※8 午前5時時点のデータ
 ※9 使用済ベッセル内訳: セシウム吸着装置使用済ベッセル 779 本
 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル 248 本
 第三セシウム吸着装置使用済ベッセル 11 本
 その他: 保管容器 3,928 基
 処理カラム 17 塔
 使用済ベッセル 236 本
 フィルタ類 65 本

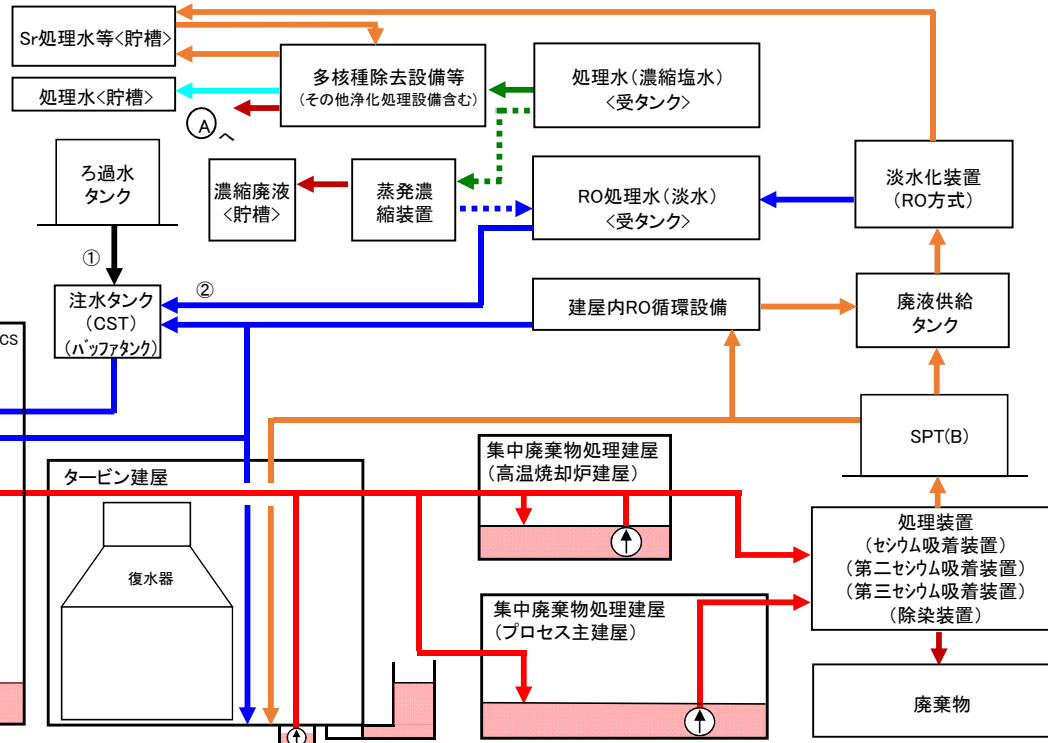
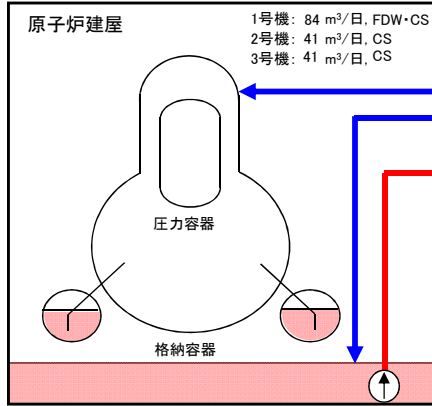
※10 溶接タンクに貯蔵されているSr処理水等(ALPS処理前水)の貯蔵量
 ※11 フランジ型タンクに貯蔵されているSr処理水等(ALPS処理前水)の残水量
 ※12 溶接タンクに貯蔵されている「ALPS処理水」及び「処理途上水」の貯蔵量
 ※13 フランジ型タンクに貯蔵されている「処理途上水」の残水量
 ※14 既設多核種除去設備サンプルタンク(フランジ型タンク)、
 増設多核種除去設備一時貯留タンク(溶接タンク)及び、
 高性能多核種除去設備一時貯留タンク(溶接タンク)に
 貯蔵されている「処理途上水」の貯蔵量
 ※15 Sr処理水等(ALPS処理前水)を貯蔵していた溶接タンクを
 「処理途上水」貯蔵用に再利用。
 これらに貯蔵されている「処理途上水」の貯蔵量
 (2019年以降に再利用する溶接タンク)
 ※16 処理水、サンプル水、処理水(再利用)、処理水(残水)各欄の
 貯蔵量を合計したものが「ALPS処理水等」の貯蔵量となる
 ※17 廃スラッジと上澄み水の合計値
 (午後1時時点のデータ)

【前回報告時(2022/1/6)～現在(2022/1/13)の主なイベント】
 ・1～4号機から建屋(1～4号機、集中廃棄物処理建屋)及び処理装置への移送を適宜実施
 ・その他工事等による建屋(1～4号機、集中廃棄物処理建屋)への移送を適宜実施
 ・セシウム吸着装置の運転を停止中
 ・1/11 第二セシウム吸着装置の運転を再開(稼働率:10%(前回想定稼働率:10%))
 ・1/6 第三セシウム吸着装置の運転を再開(稼働率:44%(前回想定稼働率:45%))
 ・1/11 第三セシウム吸着装置の運転を停止

高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【2022/1/20想定】

区 分	
■ / ■	高レベル水/廃棄物、濃縮廃液
■ / ■	処理水(濃縮塩水)/配管撤去
■	Sr処理水等
■ / ■	RO処理水(淡水)/配管撤去
■	多核種除去設備等処理済水
■	ろ過水

原子炉注水量[m ³](1/13-1/20)	今回報告比[m ³]
①ろ過水	-
②RO処理水(淡水)	1,174 ▲102
累積処理水	1,147,311



水種別の貯蔵量[m ³]*1	今回報告比[m ³]	貯蔵容量[m ³]*2.3
濃縮塩水	0	-
RO処理水(淡水)	9,331	+101
濃縮廃液	9,200	変化なし
処理水 ※9.13	1,219,020	+71
サンプル水 ※11.13	5,339	+1,417
処理水(再利用) ※12.13	51,652	変化なし
Sr処理水等 ※7	11,035	▲1,013

残水量[m ³]*4	今回報告比[m ³]	貯蔵容量[m ³]*2.3
濃縮塩水	約200	変化なし
処理水 ※10.13	0	変化なし
Sr処理水等 ※8	0	変化なし

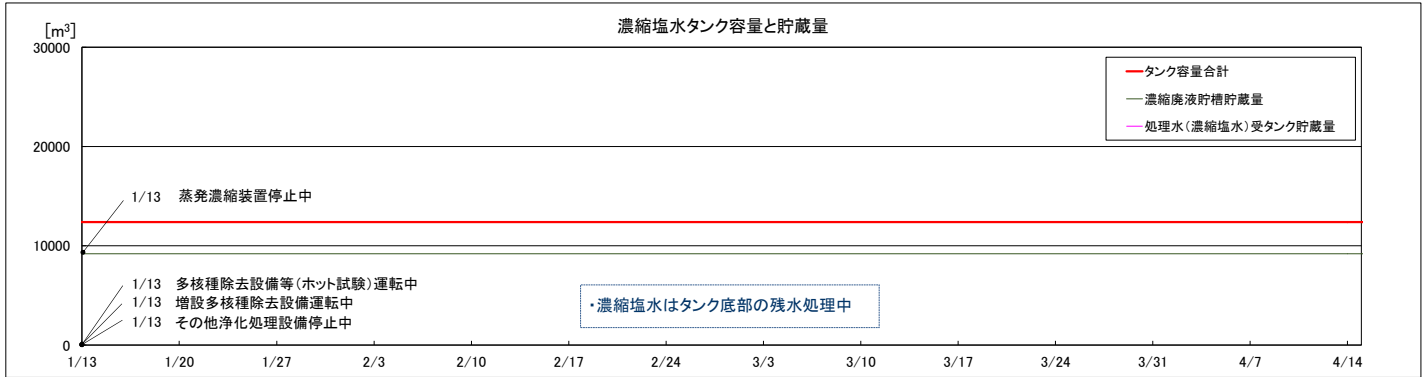
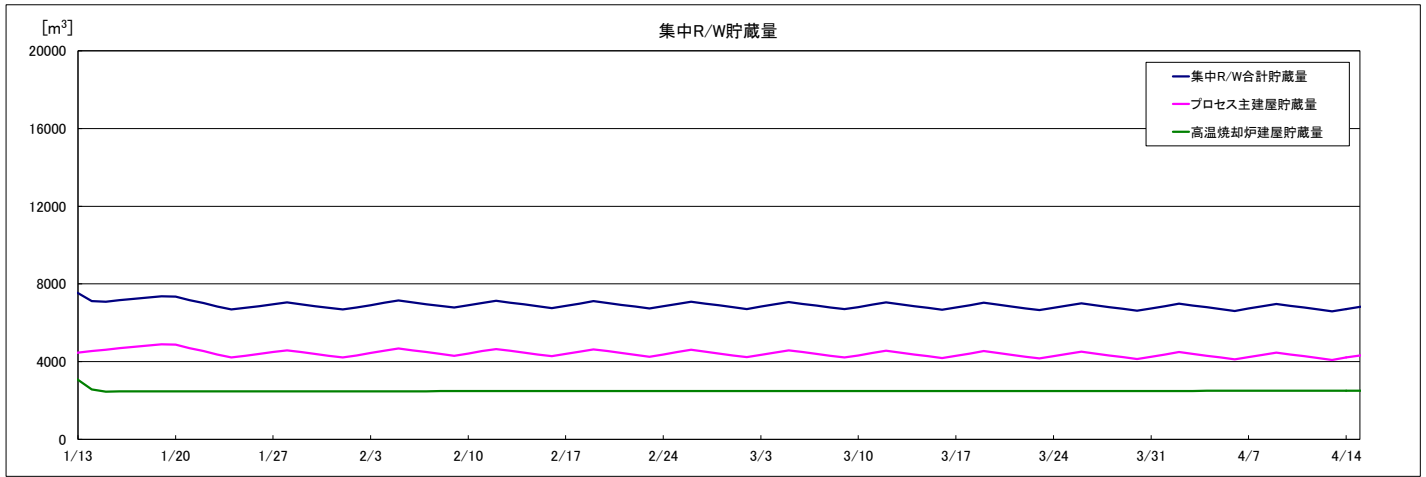
施設	貯蔵量[m ³]	今回報告比[m ³]	T/B建屋内水位
1号機	約1,070	変化なし	-
2号機	約1,420	変化なし	-
3号機	約1,960	変化なし	-
4号機	約10	変化なし	-
合計	約4,460		

貯蔵施設	貯蔵量[m ³]	今回報告比[m ³]	水位	処理量[m ³](1/13-1/20)	累積処理量[m ³]	廃棄物発生量	今回報告比	保管容量
プロセス主建屋	約4,860	+390	T.P.-595	約1,680 ※5	約2,492,420 ※5	廃スラッジ[m ³]	438	変化なし
高温焼却炉建屋	約2,470	▲590	T.P.-206			使用済ベッセル[本]	5,287 ※6	+3
合計	約7,330					6,372		

※1 貯蔵量には「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」は含んでいない
 ※2 運用上の上限値
 ※3 「タンク等の底部～水位計0%の水量(DS)」は含んでいないが、貯蔵量のDS以上の貯蔵容量がある
 ※4 表記載の残水量には、「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいる濃縮塩水の残水量は多核種除去設備等の処理量より算出
 ※5 セシウム吸着装置、第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置の合計処理量
 処理量の内訳: セシウム吸着装置 0 m³
 第二セシウム吸着装置 1,680 m³
 第三セシウム吸着装置 0 m³
 累積処理量の内訳: セシウム吸着装置 394,720 m³
 第二セシウム吸着装置 1,985,860 m³
 第三セシウム吸着装置 111,840 m³
 ※6 使用済ベッセル内訳: セシウム吸着装置使用済ベッセル 779 本
 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル 248 本
 第三セシウム吸着装置使用済ベッセル 11 本
 その他: 保管容器 3,931 基
 処理カラム 17 塔
 使用済ベッセル 236 本
 フィルタ類 65 本

※11 既設多核種除去設備サンプルタンク(フランジ型タンク)、増設多核種除去設備一時貯留タンク(溶接タンク)及び、高性能多核種除去設備一時貯留タンク(溶接タンク)に貯蔵されている「処理途上水」の貯蔵量
 ※12 Sr処理水等(ALPS処理前水)を貯蔵している溶接タンクを「処理途上水」貯蔵用に再利用。これらに貯蔵されている「処理途上水」の貯蔵量(2019年以降に再利用する溶接タンク)
 ※13 処理水、サンプル水、処理水(再利用)、処理水(残水)各欄の貯蔵量を合計したものが「ALPS処理水等」の貯蔵量となる

【現在(2022/1/13)～想定(2022/1/20)の主なイベント】
 ・1～4号機から建屋(1～4号機、集中廃棄物処理建屋)及び処理装置への移送を適宜実施予定
 ・その他工事等による建屋(1～4号機、集中廃棄物処理建屋)への移送を適宜実施予定
 ・セシウム吸着装置の運転を停止継続予定
 ・第二セシウム吸着装置の運転を実施予定(想定稼働率:20%)
 ・第三セシウム吸着装置の運転を停止継続予定



注記 ・処理装置の処理量は滞留水貯蔵施設の貯蔵量等の状況により変更